

金融機関ランキング

SMBC信託銀、「シティ」効果

外貨預金 リテール統合で扱う通貨豊富に

マイナス金利政策の継続で円の預金金利が上向きづらいなか、外貨預金に注目する人が増えている。「外貨預金の品ぞろえが充実している」の項目では、SMB C信託銀行が前回到続き首位に立った。

2015年11月にシティバンク銀行のリテール部門を統合し、外貨預金の品ぞろえを充実させたことが引き続き高評価につながった。米ドルやユーロだけでなく、スイスフラン、南アフリカランドなど、10通貨で預けられる普通預金と定期預金を取り扱う。全米のATMから預金を引き出せるキャッシュカードも提供している。

2位は0.1ポイントの僅差でソニー銀行。17年1月に優遇プログラムを改定し、ランクが上がるごとに外貨預金をする

外貨預金の品ぞろえが充実

順位(前回)	金融機関名	得点
1(1)	SMB C信託銀行	64.8
2(2)	ソニー銀行	64.7
3(4)	みずほ信託銀行	61.8
4(18)	東京スター銀行	59.3
5(6)	住信SBIネット銀行	58.7
6(5)	新生銀行	58.2
7(3)	大和ネクスト銀行	57.4
8(22)	大垣共立銀行	56.9
9(18)	あおぞら銀行	55.5
10(10)	じぶん銀行	55.1
11(7)	三井住友信託銀行	54.9
11(15)	京都銀行	54.9
13(16)	埼玉りそな銀行	54.8
14(8)	三菱UFJ信託銀行	54.6
15(26)	横浜銀行	54.5

際の為替コストが下がるといった特典を拡充した。3位はみずほ信託銀行で、大手行ならではの安心感が評価されたようだ。

東京スター銀、商品に新味

運用・ローンの提案力 行員教育徹底も寄与

資産運用やローンの提案力では、前回6位だった東京スター銀行が1位に躍進した。「行員教育の徹底などが評価につながった」(東京スター銀) 同行は全国30店舗以上で「人生の見直しセミナー」を開催。資産運用に関する相談に積極的に応じている。商品面でも、住宅を担保にお金を借りるリバースモーゲージや、預金残高と同額の住宅ローンの金利をゼロにするローンなど、他行に比べて特徴のある金融商品を扱っている点も、差別化につながった。

今回は城南信用金庫が3位、前は25位だった尼崎信用金庫が7位に入るなど、信金も存在感を増した。来店客の中心を占める高齢者層への退職金の運用提案などに力を入れたことが高評

資産運用やローンの提案力

順位(前回)	金融機関名	得点
1(6)	東京スター銀行	65.0
2(1)	みずほ信託銀行	62.8
3(一)	城南信用金庫	58.1
4(2)	SMB C信託銀行	56.3
4(8)	愛知銀行	56.3
6(3)	三井住友信託銀行	56.2
7(4)	三菱UFJ信託銀行	56.1
7(25)	尼崎信用金庫	56.1
9(32)	近畿大阪銀行	55.8
10(17)	新生銀行	55.4
11(18)	横浜銀行	55.3
12(12)	住信SBIネット銀行	55.1
12(15)	ソニー銀行	55.1
14(11)	京都銀行	54.9
15(22)	大垣共立銀行	54.8

価につながったもようだ。

みずほ信託銀行、三菱UFJ信託銀行などの大手信託銀は、いずれも10位内に入った。

■第14回金融機関ランキング調査の概要 調査は日経リサーチに委託、2017年11月24日から12月5日にかけてインターネットで調査した。首都圏(東京、神奈川、千葉、埼玉)、近畿圏(大阪、京都、兵庫、奈良)、中京圏(愛知、岐阜、三重)の20歳代~60歳代の男女4001人から有効な回答を得た。内訳は男性2119人、女性1882人。

評価対象の金融機関は大手銀行と信託銀行のほか、ゆうちょ銀行、ネット専門銀行など。地銀・第二地銀は調査対象エリアに本店のある銀行、信用金庫は17年3月期の預金積金が1兆円以上ある先から営業地域を加味して選定した。

また、地方版ランキングは上記三大都市圏を除く各地域で、地銀・第二地銀のほか信用金庫・労働金庫・JAバンクを対象に実施した。総合ランキング対象の金融機関はこのランキングから除外した。

顧客の満足度は各個人が主に利用する金融機関について①接客・利便性(窓口対応やATMの営業時間、事務処理の迅速さなど)②品ぞろえ、提案力(預金金利の高さや商品説明のわかりやすさなど)③信頼性(セキュリティ対策や経営情報の公開度など)④今後も利用したいかどうか、の4分野、合計23項目が対象。「大変満足」「まあ満足」「どちらともいえない」「やや不満」「大変不満」の5択形式で答えてもらい、点数化した。回答数が30未満の金融機関はランキングから外した。